

市功労者等を表彰

市は8月1日、功労者等表彰式を開催。功労者5人、篤志者3人・4団体、分野別功績者16人・3団体を表彰しました。被表彰者は次の皆さんです（敬称略、順不同）。



被表彰者の皆さん

功労者

塩見麻理子（里町）

平成14年9月から5期20年、市議会議員を務め、副議長や予算決算委員会、産業厚生環境委員会の委員長を歴任。議会の円滑な運営に尽力し、住民の代弁者として地方自治の進展に寄与された。

掲頭久美子（大島町）

平成10年1月から7期24年にわたり市議会議員を務め、産業建設委員会、産業厚生環境委員会、防災対策特別委員会の各委員長を歴



代表して謝辞を述べる森さん

任。議会の円滑な運営に尽力し、住民の代弁者として地方自治の進展に寄与された。

福山保孝（井倉町）

平成16年から10年にわたり綾部市社会福祉協議会会長として社会福祉に尽力。また、平成21年4月から市人権教育推進連絡協議会の会長として、人権教育の推進に取り組む。さらに、あやべ里山サイクリングやタンデムを楽しむ会を主催し、障害者施策や観光・スポーツ振興による交流人口の拡大に貢献された。

森義美（十倉名畑町）

平成14年9月から5期20年、市議会議員を務め、副議長や産業厚生環境委員会、総合計画等審査特別委員会の委員長を歴任。議会の円滑な運営に尽力し、住民の代弁者として地方自治の進展に寄与された。

（故）吉崎久（岡町）

平成14年9月から5期20年、市議会議員を務め、総務教育建設委

員会や由良川内水対策特別委員会、防災対策特別委員会の委員長を歴任。議会の円滑な運営に尽力し、住民の代弁者として地方自治の進展に寄与された。

篤志者

吉川隆（広島市）▽四方祥樹（東京都）▽出口紅（亀岡市）▽A Z COM丸和ホールディングス（埼玉県）▽片山化学工業研究所（大阪市）▽ケーケーシー情報システム（京都市）▽富士商（大阪市）

分野別功績者

井上歩乃花（五津合町）▽上原心（上延町）▽大槻優（小貝町）▽小田翔至（与謝野町）▽片岡明（大島町）▽鹿子木旦夫（田野町）▽小林修（味方町）▽逆瀬川琉聖（上野町）▽塩見百代（小畑町）▽四方優（西原町）▽田中丈夫（神宮寺町）▽田村哉人（井倉町）▽福井ヒデ子（位田町）▽前田花穂（広小路一丁目）▽山内月然（瀬垣町）▽山本勉（物部町）▽綾部市少年少女消防クラブ（味方町）▽綾部スイミングスクールリレーチーム（青野町）▽オムロン綾部事業所（中山町）

農業委員・推進委員決まる

第25期農業委員会の各委員が決定。市は7月18日に農業委員辞令交付式、同委員会は21日に農地利用最適化推進委員辞令交付式を行いました。

任期は3年間

農業委員会は7月21日、総会を開催し、互選により会長を三和喜治さん、同職務代理者を鎌部勉武さんに決定。その後、会長から農地利用最適化推進委員（以下、推進委員）に委嘱状を交付しました。両委員の任期は、7月20日から令和8年7月19日までの3年間。委員は次の皆さんです（敬称略、順不同）。

【農業委員】角山敏男（睦寄町）▽



山崎市長から辞令を受け取る農業委員

鎌部勉武（五津合町）▽福井省平（睦合町）▽高橋大治郎（忠町）▽白波瀬一幸（鷹栖町）▽柏原明宏（上杉町）▽神田一之（七百石町）▽三和喜治（上八田町）▽山崎喜三郎（多田町）▽四方諭（味方町）▽林多嘉子（月見町）▽雨林利治（高津町）▽大志万志幸（大島町）▽高橋加絵（高津町）▽居相雅代（小貝町）▽大槻耕治（館町）▽福井泰子（位田町）▽大槻祐紀（西坂町）▽坂根正司（金河内町）
【推進委員】仲久保弘志（故屋岡町）▽今井直幸（八津合町）▽古和田満（五津合町）▽齋井隆司（十倉向町）▽谷垣正義（上原町）▽西野栄二（梅迫町）▽四方敏晴（瀬垣町）▽四方範敏（高倉町）▽上柿直一（井倉町）▽西村虎三（岡町）▽大嶋康治（豊里町）▽大槻智（大島町）▽永井久男（栗町）▽片桐好郎（物部町）▽村上秀則（白道路町）▽井上吉夫（志賀郷町）▽白波瀬一雄（別所町）

痛



善聞語録

最近、親しい人との何気ない会話の中で、魚には痛点がないという話が話題になった。私にとっては文字通り「目から鱗」の驚きであったのだが、というのは魚が釣り上げられる時に針の刺さった顎に全体重がかかる姿を想像してしまい魚釣りを控えてきたからだ。魚も人間同様その痛みに耐えているならば、なんて残酷な仕事かと思ひ込んでいたのだが、はたしてその魚に痛点がないとしたら、話は別である。

「痛みの無い世界」は総じて良いことの方が多そう。実際、痛みを和らげるために痛み止めを飲む人は多く、薬剤メーカーもより効果の優れた鎮痛薬の開発を競っている。しかしながら人は痛みを経験することで、時には反省し、

悔い改めようとするものだ。「失敗は成功の母」という所以である。失敗から多くを学び、その痛みを繰り返さないために精進するからであり、痛ければ痛いほどその効果は大きい。そう考えると痛みも時には、人生を見つめ直す機会として必要悪の一面があるのではないかと、とも。

私は40代に痛風を発症し、それまでの不健全な食生活を改めた。結局は薬に頼ることになったが、その指標となる尿酸値にはできるだけアンテナを張った生活をしている（つもりだ）。ところが最近になって帯状疱疹を患った。主な原因は加齢との医者の診断で、これは諦めもつぐが、加えて「ストレスと疲れ」と言われると、何とも微妙。対症療法とばかりに「ケ・セラ・セラ（どうか、なる）」とストレス度合いを軽減するようなことをしたら、今の職責を全うできるであろうか、と複雑な気持ちに…。

ところで気になることに、最近の研究では「魚にも痛点がある」との報告がある。まだ未確定で諸説あるとのことだが、叶わずともいっそう魚に直接訊いてみたい衝動に駆られるこの頃である。

山崎善也（綾部市長）